

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	宮城大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ミヤギダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F104210100872
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	宮城県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	科目名	学外研修(インターンシップ・アドバンストコース)
	学部・研究科等名	事業構想学群、食産業学群
	担当教職員名・役職	山本まゆみ・基盤教育群教授、大嶋 淳俊・事業構想学群教授、堀田宗徳・食産業学群准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	15
	受入企業等数	2
	受入企業等名	株式会社マクロミル、みやぎ生活協同組合
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	事業構想学群と食産業学群の学群共同科目である。大学と企業が合同して5日間フルオンラインで課題解決型インターンシップのプログラムを検討し、各コースは担当教員と研修先とで教育的な効果が出せるように協議して独自に開発した研修内容を実施する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	学群2年次を対象。学外研修の選択科目として、休業期間中に実施し、2単位を付与する。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている

要素③		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	ビジネスマナー研修、Zoom（オンライン）研修、自己分析シートを作成し自己理解を深める、受入企業の事業内容等の事前調査・研究、成果目標やForms（オンライン）で行動計画の提出。なお、本科目受講前にも本学の「インターンシップI」という2年生必修科目（15回）において、本学独自のインターンシップ教科書を活用して多数の企業の協力を得てインターンシップ教育を実施しており、十分な基礎知識やスキルの習得を済ませている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	日報やレポートを用いて現場での体験の振り返り、グループと個人での報告会実施。受入企業にも参画いただき評価してもらった。インターンシップの経験について、事後学習後にも各自の有効活用について考えを深めるための振り返りの機会も創った。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	事前学習前にアンケートによる志望動機を提出させ、インターンシップ中に教職員がオンライン参加し学生の様子やフィードバックを実施。インターンシップ終了後も、各種のセミナーなどを紹介して培った能力の活用を促している。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	受入企業にも評価してもらっている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細	全てのコースで、事前事後のアンケート調査による効果測定を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前1日＋実施5日＋事後1日

	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習1日、株式会社マクロミルとみやぎ生活協同組合において5日オンラインインターンシップを実施、事後学習1日の計7日。事後学習の報告会には受入企業も参加して評価していただく。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	受入企業も協力してプログラムを設計し、インターンシップ終了後には受入企業にフィードバックをもらっている。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://gakumu.myu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=AAH005103&P2=2021&P3=20210401
問い合わせ先	大学等名	宮城大学
	担当部署名	キャリア・インターンシップセンター
	担当者役職名	副センター長/インターンシップ開発室長
	担当者氏名	大嶋 淳俊
	電話番号	022-377-8729
	メールアドレス	oshimaa@myu.ac.jp